

## 1. 古典的社会学と都市

- 19世紀後半から20世紀初頭にかけてのヨーロッパ社会学（独・仏）は、都市をどのように扱ってきたか？
- 社会学は、近代化にともなう社会生活の変化に関心をよせていた。産業化にともなう都市化は、われわれの生活をどのように変えるのか？

(1) フェルジナント・テンニエス『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト』（1887年）

- ゲマインシャフト：「本質意志にもとづく結合体」→感情融合による結合



「あらゆる分離にもかかわらず、結合している」  
血のゲマインシャフト——母子、家族、親族、民族  
場所のゲマインシャフト——隣人、村落  
精神のゲマインシャフト——友人、（自治）都市

- ゲゼルシャフト：「選択意志にもとづく形成体」→利害関心にもとづく結合  
「あらゆる結合にもかかわらず分離している」  
契約・大都市・学者共同体など。

中世自治都市は「精神のゲマインシャフト」、近代大都市は「ゲゼルシャフト」。  
世界史はゲマインシャフトの時代からゲゼルシャフトの時代へ。  
本質意志にもとづく結合の衰退＝コミュニティの衰退。

(2) エミール・デュルケーム『社会分業論』（1893年）

- エミール・デュルケーム（1858.4.15.～1917.11.15）。フランスの社会学者。



1887年ボルドー大学講師、1896年ボルドー大学教授（社会科学講座）、1902年パリ（ソルボンヌ）大学教授。『社会分業論』、『社会学的方法の規準』、『自殺論』、『宗教生活の原初形態』などは、今日でも社会学の古典とされる。社会を実在としてとらえる社会学主義を唱え、デュルケーム学派を築きあげる。

- 機械的連帯から有機的連帯へ。

機械的連帯	→	無規制的分業	→	有機的連帯
類似にもとづく連帯				分業にもとづく連帯
環節型社会				組織型社会
（氏族社会）				（職業組織）

- 機械的連帯はなぜ崩壊したか？

社会の「容積」と「密度」の増大が分業を発達させた。

「容積」＝人口。

「密度」＝相互作用の密度（多くの人とさまざまな組み合わせで頻繁に相互作用する）。  
（「動的密度」「道徳的密度」とも言う）。

●無規制的分業（アノミー）とは？

分業が発達しても有機的連帯が出現せず、有効な社会的規制が働かない状態。

アノミーとはノルムがない状態。「無規範」状態ともいう。

●有機的連帯：分業は協同なくしては成り立たないから、分業が発展した社会には、それに応じた社会的連帯がありうる。

(3) ゲオルク・ジンメル『大都市と精神生活』（1903年）

●ゲオルク・ジンメル（1858.3.1.～1918.9.26）は、ベルリン生まれのユダヤ人。



ベルリン大学を卒業後、15年間、同大「私講師」の地位に甘んじる。人気のある私講師。1914年シュトラスブルク大学教授。社会学、哲学、美学など幅広い分野で講演・著作活動をした。社会学の分野では「形式社会学」の提唱者、哲学の分野では「生の哲学」を唱えた哲学者として知られている。

●大都市と精神生活

大都市は、巨大な社会-技術的機構と個人の自己保存との格闘の場。

「過剰な神経的刺激」→「知性の発達」（情緒的結合でなく理性的結合）

「貨幣経済」「計算可能性の増大」（すべてを貨幣に換算して考える）

「歓楽に飽きた態度」「無関心」→自己保存の危機

「人格的自由」「個性化」「専門化」（個性的な個人の自己主張）

●ドイツに留学したロバート・E・パークをつうじて、シカゴ学派に影響をおよぼす。

(4) マックス・ウェーバー『都市』（1920年、遺稿）

●マックス・ウェーバー（1864.4.21～1920.6.14）。1892年ベルリン大学私講師、1894年



フライブルク大学教授（経済学）、1896年ハイデルベルク大学教授（1899年以降病気のため休講、1903年名誉教授）、1918年ウィーン大学、1919年ミュンヘン大学で講義。なぜ西欧においてのみ近代資本主義が発達したのかという関心に貫かれた壮大な比較社会学を展開した。

●『都市』

西欧において近代資本主義が発達した歴史的条件のひとつとして中世自治都市の存在を指摘。

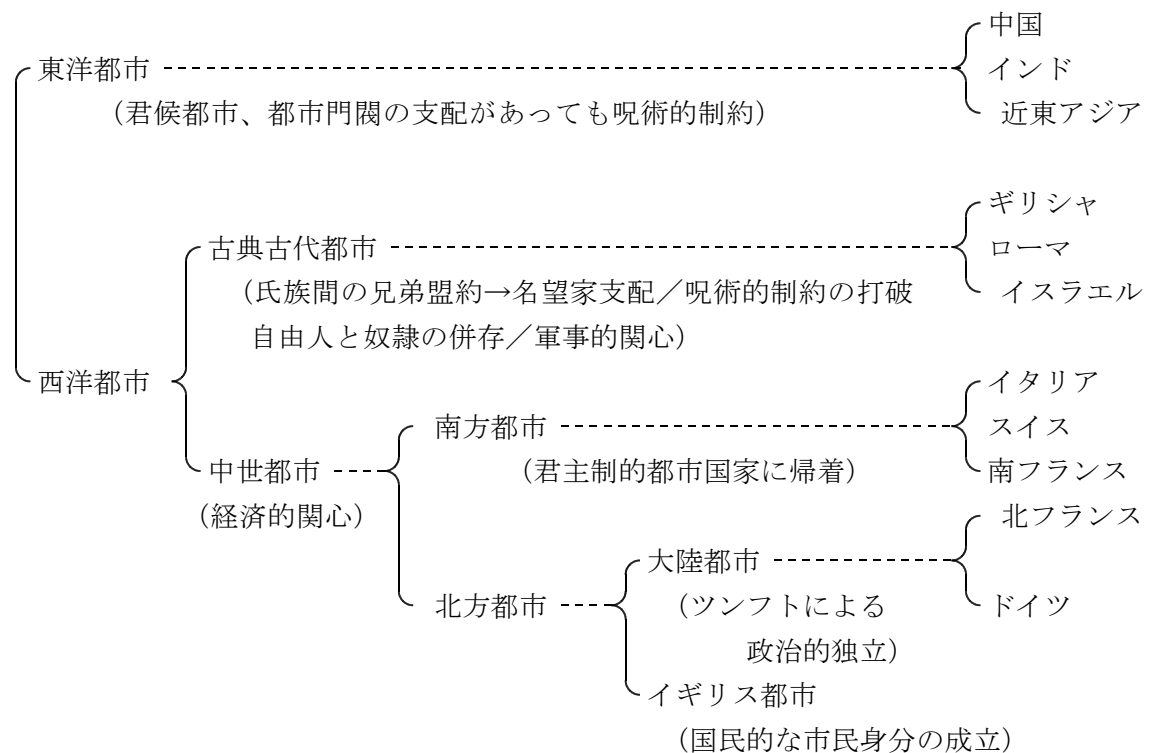
●都市の定義：古今東西のすべての都市に共通しているのは、住居が密集していること、集落の規模が（互いに顔見知りになれないほど）大きいこと。

●都市の経済的定義：都市は「市場定住地」  
「消費者都市」（君侯都市）→「生産者都市」（商工業者の都市）

●政治的・行政的都市概念：都市は要塞によって囲まれた特殊な支配領域。  
結局、都市とは、要塞によって囲まれた共同体にして市場定住地（「城市」）。

●西洋中世都市の理念型：「都市ゲマインデ（共同体）」  
都市ゲマインデとは、(1)防御施設と市場をもち、(2)独自の裁判所と法があり、(3)ひとつの団体をなして、(4)その団体の長を自ら選出し、(5)自律的な都市経済政策を展開する、工業的・商人的な性格をもった定住地。

都市の諸類型



●中世自治都市が、近代資本主義と近代国家の原型となる。  
「古典古代の都市の基礎の上には、近代資本主義も近代国家も成長しなかった。これに反して、中世における都市の発展は、なるほど近代資本主義と近代国家とのための唯一決定的な前段階ではなかったし、いわんやこの両者の担い手であったわけではもちろんないが、しかし、やはり、この両者の成立のための最も決定的な一因子として、無視しえない重要性をもっている」(Weber, 1956=1964:258)。